

## 三分間法話に臨んで

『三分間法話 やさしい「法話作成ガイドブック」をテキストとして』

第四宗務所布教師会 秋季研修会 令和五年十月一六日

第一章 伝えたいこと「主題（テーマ）」を決める

① 主題の種類 P6を参照の事

☞ 自分の担当日前後の行持・行事(祭日、防災の日、七五等)に注目してみる

② 主題を一つに絞り、明確にする

☞ 一つに絞り切れているか、点検すること

③ 誰に伝えたいのか、話の対象を明確にする

☞ 一般的には、不特定多数の方だが、例えば、入学・就職シーズンには、若者向けも可。

④ 何を書いてよいかわからないときは、仏教の基本的な知識を解説してみる

☞ 但し、解説や説明に終わらないように。自分の考え意見を取り入れること！

⑤ 体験は宝物、自分の体験を思い出してみる

☞ 体験談は、語る方にも力が入るし、説得力がある。但し、それを法に結び付けていくこと！

⑥ 何となく伝えたいことがあってもまとまらないときは、紙に書きだす

☞ レジユメのように書き出してみて、纏めていく。別々の紙にメモして整理していく

⑦ 「法(仏さまの教え)」が書かれていなくても、「法」を意識して書けば、「法話」になる。

☞ 但し、道徳ではなく、法話であることを忘れずに！

## 第二章 原稿作成の手順

① まずは、文字数や構成を考えずに書いてみる

☞ 自分が伝えたい主題を素直に表現してみる

② 原稿を推敲する 第三章に記述

③ 題名は最後につける

☞ 聞いてみたいと関心をもたれる演題に。分かりやすさ。

④ 書いた原稿は寝かす

☞ 二三日寝かすことにより、より明確に伝えたい事が整理できる

⑤ 他の人に原稿を読んでもらう

☞ 読んでもらうだけでなく、聴いてもらおうと良い。檀家に聞いてもらえれば最良。

⑥ 締め切りを守る

## 第三章 推敲する 分かりやすい文章にするために

① 全体の構成を整えて、理解しやすい文章にまとめる

ア、起(序説)・承(主旨「法」)・転(例話)・結(帰結)

イ、法(主旨「法」)・比(例話)・因(結論)

ウ、起(導入)・承(展開)・転(仏祖の教え「法」)・結(集結)

エ、起(導入)・承(展開)・結(集結「法」)

☞ ウ・エについては、前半を自然な流れで展開して、後ろに法を入れながら帰結する。三分という短い時間の中で、纏める手法。ただ、法がきちっと、盛り込まれるように。

☞ 法の串刺しになっているか。序論と結論がきちっと結びつかない法話が多い。特に結論ではらけてしまったり、例話と結論に隔たりができることが多い。絞り切ること！

☞ 出だしは分かりやすく、最終的に、聞き手に共感を呼び、自らも実践を促す結論にする。

② 内容が伝わりやすいよう、5W1Hを心がける(いつ、どこで、だれが、何を、なぜ、どのように)☞ 例話は、分かりやすく時系列に並べて構成するように。